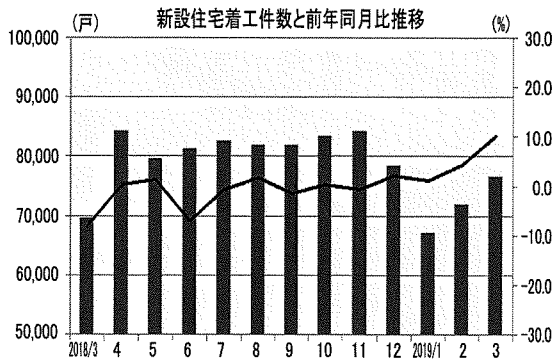


週刊ブロック通信

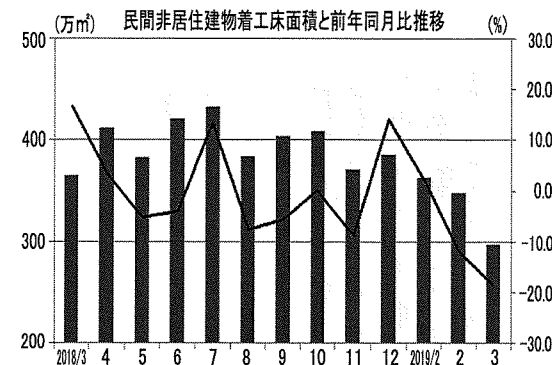
コンクリート
製品の業界紙
週刊ブロック通信
購読、広告の
お申し込みは
TEL 03-3431-2811
FAX 03-3578-3450
kjp@msj.biglobe.ne.jp
(株) 公共事業通信社

発行所 公共事業通信社 東京都港区新橋6-22-6 JOYOビル7F 電話 03(3431)2811(代)
編集発行人 黒澤隆寿 購読料1カ年39,000円+税 前納 毎週月曜日発行 FAX 03(3578)3450

3月の住宅着工10.0%増 持ち家・分譲住宅が好調



国土交通省が発表した3月の新設住宅着工戸数は7万6558戸(前年同月比10.0%増)と4カ月連続で増加した。季節調整後の年率換算値は98万9000戸で前月から2万2000戸(2.3%)増加した。国交省は「金利水準が低く良好な住宅取得環境が背景にある」と分析していた。一方、消費税増税前の駆け込みの動きは限定的という。



戸を超えるのは、16年6月の2万5489戸以来2年10カ月ぶり。内訳はマンションが1万3330戸(同69.5%増)で8カ月連続の増加。首都圏、中部圏、近畿圏ともに着工が増えた。戸建て住宅は1万1738戸(同7.1%増)で4カ月連続の増加だった。また持ち家(注文住宅)は2万2404戸(同8.9%増)で6カ月連続の増加。賃貸住宅は2万8413戸(同4.5%減)で7カ月連続の減少。2カ月連続で3万戸の大口を割り込んだ。金融機

●2018年度は2年ぶり増加
同時に発表した2018年度の民間は951万㎡(同1.0%増)で2カ月ぶりに増加した。工場・商業施設等の民間非居住用は297万㎡(同18.6%減)で、2カ月連続の減少となった。内訳は事務所27万㎡(同20.4%減)、2カ月ぶりの減少)、店舗40万㎡(同16.4%増、2カ月連続の増加)、工場63万㎡(同19.6%減、2カ月連続の減少)、倉庫38万㎡(同61.0%減、2カ月連続の減少)だった。

3月の住宅着工伸び率

北海道	13.2%	減
東北	7.0%	増
関東	16.8%	増
北陸	6.3%	増
中部	15.5%	増
近畿	7.8%	増
中国	7.6%	減
四国	22.1%	増
九州	0.7%	減
沖縄	6.9%	増

また3月の全建築物着工床面積は997万㎡(前年同月比0.2%減)で2カ月の減少。このうち民間は951万㎡(同1.0%増)で2カ月ぶりに増加した。工場・商業施設等の民間非居住用は297万㎡(同18.6%減)で、2カ月連続の減少となった。内訳は事務所27万㎡(同20.4%減、2カ月ぶりの減少)、店舗40万㎡(同16.4%増、2カ月連続の増加)、工場63万㎡(同19.6%減、2カ月連続の減少)、倉庫38万㎡(同61.0%減、2カ月連続の減少)だった。

PCa鉄筋組み立てロボ
配置結束を自動化
三井住友建設

bauma 2019レポート
4~7

鋼管杭と型枠CBで
底盤不要の垂直擁壁
KD工法

新設住宅着工戸数は95万2936戸(前年度比0.7%増)となり、2年ぶりに増加した。利用関係別では、分譲住宅が26万7175戸(同7.5%増)と2年ぶりに増加。リーマン・ショック前の08年度以来10年ぶりの高水準だった。このうちマンションは11万9683戸(同10.5%増)で3年ぶりに増加に転じ、戸建て住宅は14万4905戸(同5.1%増)と4年連続で増加した。また持ち家(注文住宅)は28万7710戸(同2.0%増)で昨年の減少から増加に転じた。賃貸住宅は39万933戸(同4.9%減)と2年連続で減少。3年ぶりに40万戸の大口を割り込んだ。

また2018年度的全建築物着工床面積は1億3108万㎡(前年度比1.5%減)となり、2年連続で減少した。このうち民間は1億2519万㎡(同0.6%減)で2年連続の減少だった。工場・商業施設などの民間非居住用は4604万㎡(同2.7%減)で3年ぶりに減少した。

鋼管杭と型枠CBで 底盤不要の垂直擁壁

KD工法

ホー(神奈川県)が開発したCB型枠ブロックを使用。施工は、原田ブロック(本社、横浜市港南区港南六―四―三五、社長原田啓治氏)が行った。

ホー(神奈川県)が開発したCB型枠ブロックを使用。施工は、原田ブロック(本社、横浜市港南区港南六―四―三五、社長原田啓治氏)が行った。

メーカーを中心に採用が増えており、都内や神奈川県を中心に30件以上の施工実績を有している。現在、南麻布の老人ホーム建設現場でも同工法が採用されている。

カヌカデザイン(本社、横浜市西区戸部本町五一―九、代表取締役嘉津博氏)が開発した底盤の要らない擁壁「KD工法」が、東京都内の個人住宅建設用地の外構工事に採用された。

KD工法は鋼管杭で擁壁を支持する独自構造を採用しており、擁壁高さや支持条件に応じて6種類の工法を揃えた特許技術。垂直擁壁で底盤も不要な工法で、根入れ部分の地中越境などの問題や建物との干渉がなく土地の有効活用を図ることができる。また杭による山留(兼用)及び小中型重機を使

用するため、狭隘地の施工も可能。その他にも、▽地盤の悪い土地でも耐震性・安全性を確保▽L型擁壁と比べ土工事、コンクリート、鉄筋使用量を3分の1に削減できる▽工期短縮を図ることができ

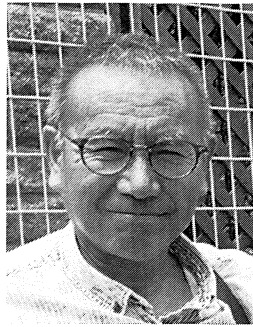
スト削減に寄与。環境にもやさしい▽デザイン性が高く景観に配慮できる―等の特長がある。用途も多彩で、▽老朽化した擁壁の改修▽地中越境したガンタ積み擁壁の改修▽膨張し亀裂が入った大谷石擁壁の改修▽型枠ブロックを使用した擁壁の築造▽集中豪雨により崩壊した狭隘地の擁壁改修▽危険な擁壁から建物を守る防護壁の築造―など様々な現場に利用できる。

設計はカヌカデザインが手掛け、施工は全国の協力会社が担当。アフターケアとして日本発となる擁壁保険も用意、施工後10年間の品質を保証する。

今回の現場では、型枠ブロックとしてト



原田社長

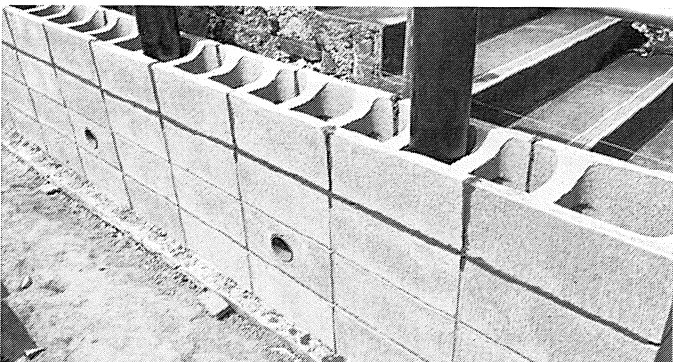


鹿糠代表

今回の現場では、型枠ブロックとしてト



杭工事



型枠ブロック組積



完成